

樹木名一覧 チョウの庭周辺

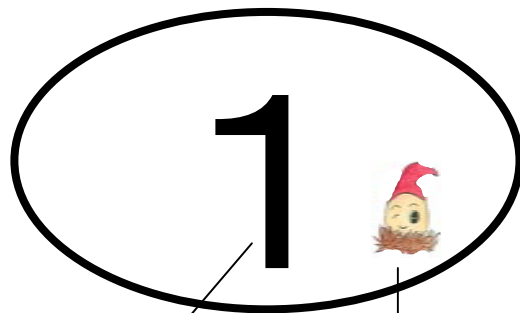


No	樹種名 (漢字名/科名)	キーワード	特徴等
1	クスノキ (楠) クスノキ科	兵庫県の木。 新芽が出ると、葉が落ちる。	常緑の高木。 樹皮はこまかい短冊状。 葉は樟腦のようなおいがする。 3本の葉脈の根元にダニ部屋がある。 実は、秋に黒紫色に熟す。
2	シャシャンボ (小小坊) ツツジ科	実は食べられ、甘酸っぱい味がする。	常緑の低木。 葉は厚くてつやがある。 5～7月頃、白色でつぼ状の小さな花をつける。 ブルーベリーの仲間で、実は初冬に黒紫色に熟す。
3	モチツツジ (麴躑躅) ツツジ科	名前の由来は、萼(がく)がつきたての餅のように粘るから。	半常緑の低木。 花は4～6月に咲く。 花びらの斑点は、虫たちに蜜のありかを教える。 葉はさわるとざらざらしている。
4	カラスザンショウ (烏山椒) ミカン科	葉はアゲハチョウなどの幼虫が食べる。実は鳥が好んで食べる。	落葉の高木。 雌と雄の木がある。 葉は大きく羽のようである。 幹や枝にはとげがある。 ミツバチの蜜源で、蜂蜜がとれる。
5	ミヤマガマズミ (深山莢迷) スイカズラ科	実は赤色に熟し、食べられる。	落葉の低木。 4～5月に白色の小さな花をつける。 葉は卵形で、葉裏の葉脈は浮きでている。 実は9～10月に熟し、果実酒などに利用できる。
6	ウメ (梅) バラ科	実は梅酒、梅干しなどになる。	落葉の小高木。 2～3月に紅色または白色で芳香のある花を咲かせる。 熟れていない種は、有毒なので食べないように。
7	ウツギ (空木) ユキノシタ科	空木の意味で、幹が中空。 別名ウノハナ	落葉の低木。 卯月(陰暦4月)に、白い花(ウノハナ)を咲かせる。 葉の表と裏に毛があり、さわるとざらざらしている。
8	アベマキ (楢) ブナ科	樹皮はコルクとしてビンの栓などにしていた。	落葉の高木。 樹皮は弾力があり、葉の裏は灰白色。 よく似たクヌギの葉の裏は、淡緑色。 実(ドングリ)は翌年の秋に熟す。
9	アラカシ (粗榧) ブナ科	ドングリの帽子にはしま模様がある。	常緑の高木。 名前の由来は、葉の縁のギザギザが粗いから。
10	ナフシログミ (苗代茱萸) グミ科	名前の由来は苗代を作る初夏に実が熟することによる。	常緑の低木。 10～12月に黄白色の花を咲かせる。 実は赤く熟し、食べられるがしぶみがある。 枝がよく分かれ、とげに変わるものが多い。

選定木マーク と 配置図

チョウの庭周辺：①～⑩

選定木マーク



選定木のナンバー
(No)

ききみみずきん
のイラスト



樹木名一覧 芝生広場



No	樹種名 (漢字名/科名)	キーワード	特徴等
11	ネズ (杜松) ヒノキ科	葉っぱを触ると痛いので、ネズミよけに使われた。 別名ネズミサシ。	常緑の高木。雌と雄の木がある。 樹皮は、たてに薄くはがれる。 葉はとがり、さわると痛い。実は、秋に黒紫色に熟す。
12	アカメガシフ (赤芽柏) トウダイグサ科	新芽が赤い。葉の基部に蜜腺があり、アリが集まる。	落葉の高木。雌と雄の木がある。 昔は柏の葉と同じように、食物をのせるのに使った。
13	ナツハゼ (夏黄蘗) ツツジ科	秋に実は黒褐色に熟し、食べられる。	落葉の低木。枝がよく分かれている。5~6月、赤みをおびた淡黄緑色の花を咲かせる。葉はさわるとざらつく。 ブルーベリーの仲間で、果実酒にもよい。
14	クロガネモチ (黒鉄繭) モチノキ科	秋に赤い球形の実をたくさんつける。	常緑の高木。雌と雄の木がある。 若い枝が黒紫色をおびている。 樹皮は昔、鳥をとるための鳥もちに利用した。
15	イヌツゲ (犬柘植) モチノキ科	葉は小さくて厚く、枝に密生する。	常緑の低木。雌と雄の木がある。 葉が籜(くし)をつくるツゲに似ているが、有用でないため犬ツゲといわれる。
16	イヌザンショウ (犬山椒) ミカン科	サンショウに似るが実はあまり利用されない。	落葉の低木。雌と雄の木がある。 7~8月、黄白色の花を多数つけるが葉の香りはよくない。 枝にはとげが互い違いにつく。
17	ヤマモモ (山桃) ヤマモモ科	夏に赤い実がつき、食べられる。	常緑の高木。雌と雄の木がある。 若い木の葉の縁にはギザギザがあるが、年をとるとなくなる。果実酒に使われる。
18	ガンピ (雁皮) シンチョウゲ科	ミツマタ、コウソとともに和紙の原材料になる。	落葉の低木。葉の両面に毛があり、やわらかい。 5~6月頃、淡黄色の花をつける。 夜、においを出し、蛾などが集まる。
19	ヒサカキ (姫榊) ツバキ科	姫榊の姫は小さいという意味。 ホタルガの食樹。	落葉の小高木。雌と雄の木がある。 3月頃に白い花をたくさんつけ、都市ガスのようなにおいがする。 玉串の代用として使われる。
20	ネジキ (楨木) ツツジ科	幹がねじれた木。 冬芽は赤くて美しい。	落葉の小高木。6月ごろ、白いつぼ状の花が下向きにずらっと並んでつく。実は上向きにつける。 冬の時期には、赤い枝が目立つ。
21	ソヨゴ (冬青) モチノキ科	名前の由来は、風に吹かれてソヨソヨと音を立てるから。	常緑の小高木。雌と雄の木がある。 6月ごろに白色の小さな花をつける。葉の縁は大きく波打っている。秋に熟す赤い実には、長い柄がある。
22	アカマツ (赤松) マツ科	樹皮は赤褐色。 別名オンナマツ。	常緑の高木。乾燥に強く、山の尾根筋によく育つ。 葉は針形で、2本の葉をあわせた断面は、円形になる。 マツボックリは、熟すまでに2年かかる。

選定木マーク と 配置図

選定木マーク



選定木のナンバー
(No)

ききみみずきん
のイラスト



樹木名一覧 水飲み広場



No	樹種名 (漢字名/科名)	キーワード	特徴等
23	イロハモミジ (伊呂波紅葉) カエデ科	紅葉が美しい。 別名イロハカエデ	落葉の小低木～高木。4～5月ごろ、小さな花をたくさんつける。 名前の由来は、葉の切れ込みを「イロハニホヘト」と数えたことによる。翼のついた実は風によって運ばれる。
24	オオバヤシャブシ (大葉夜叉五倍子) カバノキ科	荒れ地の緑化に利用。	落葉の小高木。老木になると樹皮がはがれていく。 葉脈は葉の端まで並んでまっすぐ伸びている。 実は染料に使う。
25	ネムノキ (合歓木) マメ科	葉が夜に閉じて垂れるので「眠る木」(ネムノキ)という。	落葉の小高木。6～7月ごろ、花火のような美しい花を咲かせる。花の色はピンクで夕方に開く。 実はエンドウのような形をしている。
26	ニシキギ (錦木) ニシキギ科	枝の両側に翼(よく)が伸びる。 紅葉が美しい。	落葉の小高木。若い枝ではコルク質の翼が伸びる。 秋に実は裂け、中から赤い種が顔を出す。 庭木としても植えられている。
27	ヤマザクラ (山桜) バラ科	日本の野生の桜の代表。	落葉の高木。3～4月ごろ、葉と一緒に花が咲く。 それに対して、ソメイヨシノは花が葉より先に咲く。 樹皮は樺細工などに利用。
28	イヌビワ (犬琵琶) クワ科	イチジクのような実。 鳥などは好んで食べる。	落葉の低木。雌と雄の木がある。 葉や枝を折ると白い樹液が出る。 実は夏から秋に黒紫色に熟し、食べられるがおいしくない。
29	コナラ (木柀) ブナ科	雑木林の主役。 「小さい葉のナラ」という意味。	コナラのドングリの帽子には、瓦状の模様がある。 この森には、全部で6種類(他に、アラカシ、スタジイ、クヌギ、マテバシイ、クリ)のドングリがある。
30	エノキ (榎) ニレ科	オオムラサキ(日本の国蝶)の幼虫が、この葉を好んで食べる。	葉には3つの脈があり、上半分にギザギザがある。 葉の基部の左右が同じでない。 実は秋に赤褐色に熟し、甘くて食べられる。 この森には、オオムラサキはいない。
31	アキニレ (秋楡) ニレ科	花も実も秋に見られる。	落葉の高木。秋に小さな花が咲く。 秋の遅い時期には、翼の付いた実が風によって運ばれる。 葉が小さく整っている。
32	ガマズミ (莢迷) スイカズラ科	赤く熟した実は、甘酸っぱくて食べられる。	落葉の低木。6月ごろ、白色の小さな花をたくさんつける。 花は臭く、このにおいて虫を引き寄せます。 10月ごろ、球形の赤い実をつけ、果実酒に利用できる。 冬芽は赤みをおび、短い毛が密生する。

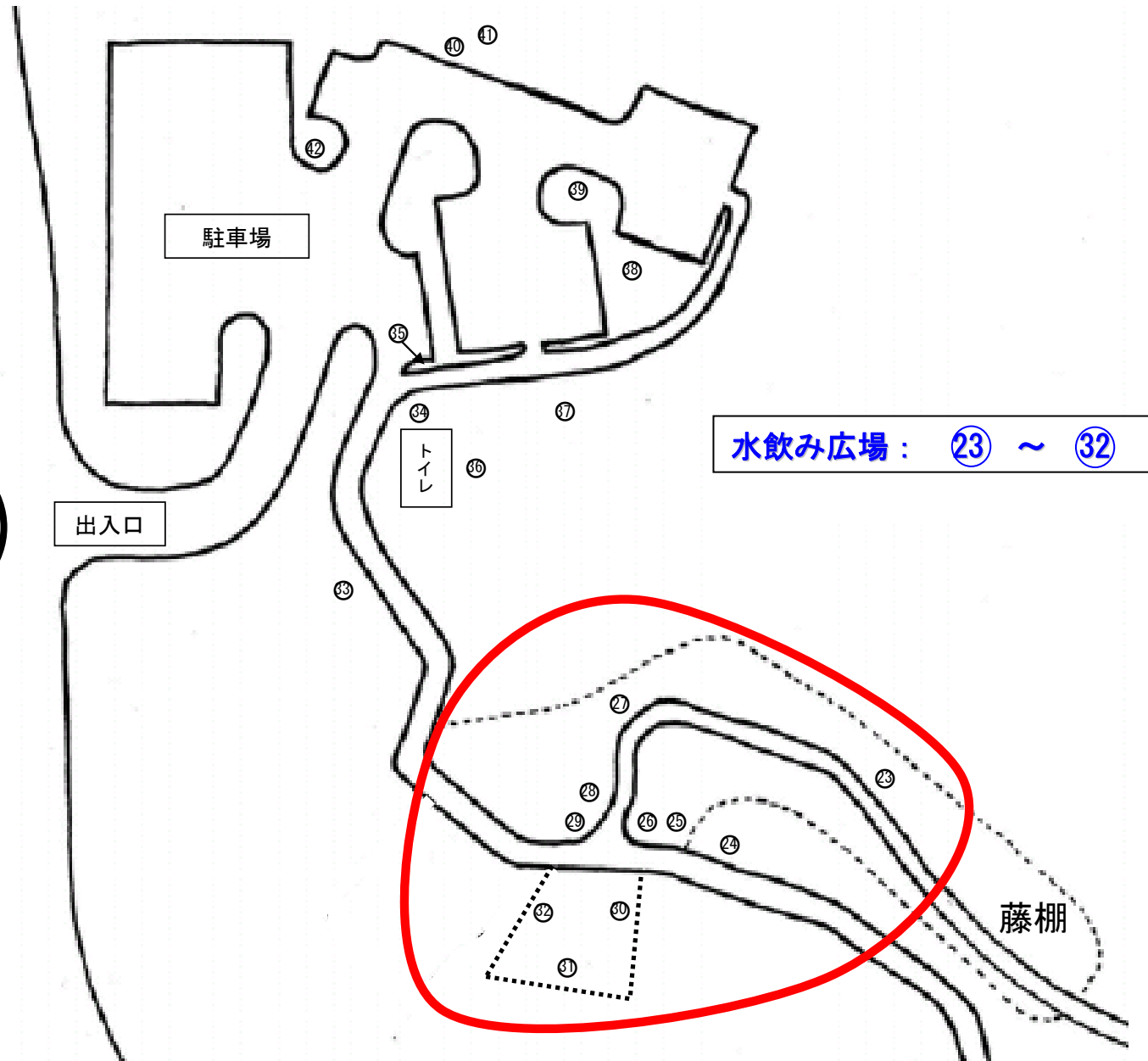
選定木マーク と 配置図

選定木マーク



選定木のナンバー
(No)

ききみみずきん
のイラスト



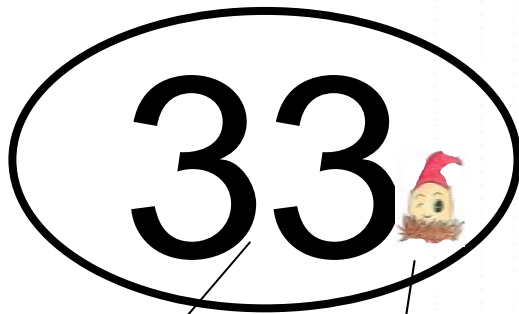
樹木名一覧 駐車場周辺



No	樹種名 (漢字名/名)	キーワード	特徴等
33	ナナミキ (七実の木) モチノキ科	たくさんの赤い実をつけるので「七実の木」という。	常緑の高木。雌と雄の木がある。 6月ごろ、淡紫色の小さな花をつける。 実は球形で、秋には赤く熟して美しい。
34	サルスベリ (百日紅) ミソハギ科	樹皮がなめらか。 サルでさえも滑るという意味。	落葉の小高木。樹皮は薄くはがれ、淡い色の木肌をしている。 7~10月にピンク、赤、白色などの花をつけ、花期が長いことから、「百日紅」といわれる。
35	ヤブツバキ (藪椿) ツバキ科	ツバキの野生種。 花はまるごと落下する。	常緑の高木。11~4月、赤色の花を咲かせる。葉の表面は光沢があり、実からは椿油をとる。 庭木など古くから利用され、園芸品種も多い。
36	ツリバナ (吊花) ニシキギ科	花を長い花柄でつり下げている。	落葉の小高木。5~6月、白~紫色の花が長くたれ下がって咲く。 秋には紅葉が美しく、実は熟して種が出てくる。 実の赤色と黄色のコントラストが美しい。
37	カラスザンショウ (烏山椒) ミカン科	葉はカラスアゲハ、モンキアゲハなどの幼虫が食べる。	落葉の高木。雌と雄の木がある。 葉は大きく羽のようである。幹や枝にはとげがある。 ミツバチの蜜源で、蜂蜜がとれる。
38	イヌマキ (犬槿) マキ科	熟した実は、緑色と赤色の串団子のように見える。	落葉の高木。雌と雄の木がある。 葉は線形で、マキに似る。 10月ごろに実は熟し、赤色の部分は甘くて食べられるが、赤緑色の部分は毒性分があり食べられない。
39	スタジイ (漢字名不明) ブナ科	花が咲いている時、遠望するとブロッコリー状に見える。	常緑の高木。春、淡黄色の雲海のように花を咲かせ、独特なおいで昆虫を引きよせる。 実は食べられるが、熟するのに2年かかる。
40	クニギ (栲) ブナ科	葉の縁の先は、針のような突起となる。	落葉の高木。花期は4~5月で、新しい枝に黄色い雄花がぶら下がる。名前は、全国に広く生育しているので「クニギ(国木)」とする説などに由来する。 実は翌年の秋に熟す。シイタケ栽培のほだ木。
41	ク (栗) ブナ科	実は、とげがあるイガに包まれる。	落葉の高木(中高木)。花期は6~7月、独特なおいで昆虫を誘う。 実は食べられる。材は硬く、重要な建築材。
42	タブキ (楠の木) クスノキ科	線香の材料に使われる。	常緑の高木。葉の表面は光沢がある。 花は4~5月ごろ、黄緑色の小さな花を多数つける。 実は夏に黒紫色に熟し、赤い柄がよく目立つ。

選定木マーク と 配置図

選定木マーク



選定木のナンバー
(No)

ききみみずきの
イラスト

